

テトとバインチュン（バインテッド）

稲作農業の文化が中心であるベトナムでは、耕作を行う関係で1年間を四つの節に分割しました。その中で、元旦節が季節の循環の原点で、栽培や植栽の開始時とされました。これが、Tet Nguyen Dan (tet: 節、nguyen: 元、dan: 旦の意味) と呼ばれ、Tet (テト) として現代でも非常に大事にされています。



バインザイ

テトでは、バインチュン（南部ではバインテット、大きなちまき）とバインザイ（おもち）を食べるのが昔からの慣習で、雄王宮の時代から伝わるものとされています。

かつて、雄王（ベトナム国の始まりである文朗（ヴァンラン）国の最初の王、日本でいえば神武天皇のような存在）が、王子たちに、王位を譲る条件として、世界で最もおいしいものを持参したものにすると告げました。この時、いいアイデ

アが思い浮かばなかった9番目の王子が、夢の中で神のお告げによって教えられたのがバインチュンでした。

料理中のバインチュン



お告げは、「世界で最も尊い食べ物であるお米を地球を表す丸型（＝お餅）にし、土を表す四角い形（バインチュン）にして具を詰めれば、万物の象徴になり、王も納得するだろう」というものでした。王子がお告げに従ってそのような食べ物（＝バインチュン）を差し出したところ、王は

その味覚に満足して、その王子を王位に据えたという伝説があります。

旧正月は旧暦に基づくために陽暦の新年よりも遅くなります。お正月（テト）の期間は毎年変わりますが、その初日は陽暦の1月21日以前と2月19日以降になることはなく、陽暦1月下旬から2月中旬の間になります。

通常、その期間はテト元日の前後数日間にあたることとなります。テトはベトナムの人々が過ぎ去った年を振り返りつつ、すべてをリフレッシュする機会です。そしてテトはベトナム人みんなの誕生日でもあり、テトの初日に皆一斉に1歳年をとります。



いずれもバインチュン

(写真：現地メディアおよびHP から)

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は CAM が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載されている特定の企業名や商品名等は当資料の理解を深めていただくために紹介したもので、個別の銘柄の推奨を目的とするものではなく、CAM の運用ファンドにその銘柄を組み入れることを保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。